

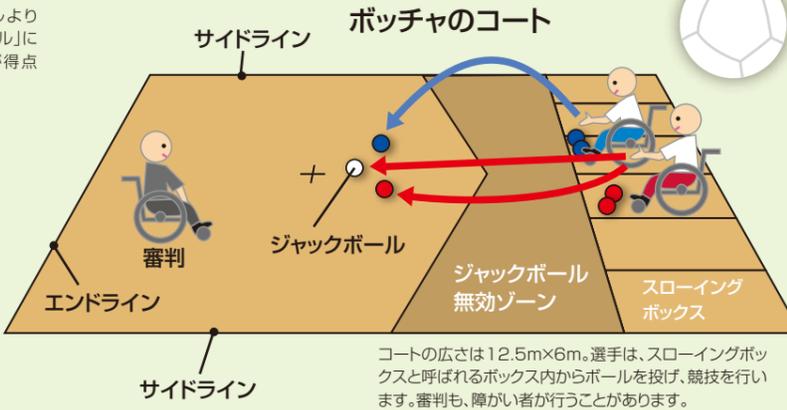
「ボッチャ」編

「ボッチャ」ってなに？

「ボッチャ」は、誰でも楽しめるユニバーサルスポーツです。「ジャックボール」と呼ばれる白い目標球を投げ、青と赤の各6球のボールをいかに近くに投げられるかを競うスポーツです。ボールを手で投げられない場合は、足で蹴つてもよく、補助員(アシスタント)を付けたり、ランプスといわれるボールを転がすことで投球する補助員を使用することもできます。相手のボールを弾いたり、目標球も弾いて移動させたりと状況が刻々と変わるゲーム性が魅力です。障がいに関係なく誰でも楽しめるスポーツとして、調布市でも下のコラムで紹介する2012年のロンドンパラリンピックの出場者、秋元妙美さんを中心に普及が進んでいます。



市内でも世代を超えたスポーツとしてボッチャの普及が進められています。問い合わせ/ドルチェ ☎042-490-6675



コートは12.5m×6m。選手は、スローイングボックスと呼ばれるボックス内からボールを投げ、競技を行います。審判も、障がい者が行うことがあります。

東京パラリンピックまであと3年を切りました。そこで今回から少しずつパラリンピックのことを紹介していきます。第1回目は「ボッチャ」を紹介します。

インタビュー

ロンドンパラリンピック出場者

秋元妙美さん

調布市在住の秋元妙美さんは、2011年のワールドカップの団体戦で銀メダルを獲得。2012年のロンドンパラリンピックでも団体7位入賞を果たしたボッチャ競技者です。

秋元さんは、出生時にへその緒が首に絡まり仮死状態で生まれ、脳性まひに。日本社会事業大学3年時に、講師の先生から勧められてボッチャと出会い、2000年のシドニーパラリンピックの現地でボッチャを見て、自分もパラリンピックに出場することを決意。本格的に取り組み、念願かなってロンドンパラリンピックに選手として出場しました。

「身体の症状の変化があったり、高いレベルを求められたりハードルはいくつもありませんでしたが、挑戦を続けたことで大きな舞台に立てました」と秋元さん。出場したことで世界も視野も広がったといいます。「チャンスがあるならぜひ東京パラリンピックに挑戦して欲しい。また、こんなに身近で大会が見

られることは稀なこと。ぜひ見たい、障がい者のスポーツを応援して欲しい」と語ってくれました。現在、秋元さんは、現役は引退。ボッチャの普及や講演活動のほか、重度障がい者の街中の社会生活を支援する「自立生活センターCIL(シーアイエル)ちようふ」の代表として活躍されています。



秋元さんは、以前は手で投げていましたが、今は、特別なシューズを作り、左足でボールを蹴っています。



CILちようふ ☎042-446-0683

調布クレストンホテル

第1回

知ってる? 調布市の「福祉」応援企業



調布駅から徒歩1分、調布パルコの8〜10階にある調布クレストンホテルは大きな宴会場を備え、結婚式も多数行われるなど、調布を代表するホテル。1997年の開業です。現在は、全国60のホテルを持つHMIホテルグループの一員。その中でも、「一番、地域や福祉のことに熱心に取り組んでいるホテルです」と同グループ広報部の高橋 学さん。



「おいしい」と大好評の料理長特製のキーマカレー(200食限定)

年1回の「2000円チャリティカレー」は、今年で19回目となりました。クレストンホテルで1500円で提供されているカレーを食べ、2000円以上の寄付をし、その売上を調布の福祉向上のために寄付するのが目的です。当日は、焼き菓子やアクセサリーなど福祉作業所の販売コーナーがあり、連絡会所属の団体も出店しています。毎年夏に行われるこのイベント、来年はぜひ参加してください。



食事中、フラダンスショーなどの演出も



「ぜひお越しください」と支配人の土橋忠幸さん

調布クレストンホテル 調布市小島町1-38-1 調布パルコ8F~10F ☎042-489-5000

できる喜びを共有することが魅力。オフはサッカーを楽しんでいます!

ふみ月チャレンジたま川 伏見 美和子さん

第1回

若手スタッフ リレーインタビュー

※このコラムは登場者が次の取材者を紹介していく「リレーコラム」です。



現在は川崎市のチームに所属。休日は試合や練習を楽しんでいます

「ふみ月チャレンジたま川」で児童指導員として働く、笑顔が素敵な伏見美和子さんは現在26歳。彼女が福祉の世界に興味を持ったのは、大学の授業で特別支援学校へ実習に行ったこと。体育の先生を目指していましたが、障がいを持った子どもたちと関わる楽しさや充実感に触れて方向転換し、福祉の道を選びました。放課後等デイサービスを行う「ふみ月の会」では「療育(障がい者が社会的に自立できるように取り組む)を進めています。」「障がいのある子どもたちは、生きにくさをかかえていたり、『経験』そのものが少ない事が多い。なので子どもたちと遊ぶだけでなく、一緒に色々と『挑戦』することを心掛けています。できることが増えた喜びを共有することが魅力。とてもやりがいがあります」と語ります。



- サッカー以外に好きなこと
 姪っ子と遊ぶこと
- 好きな食べ物
 焼き鳥
- 最近気になっていること
 お腹の肉(ダイエットします)

県の清水市出身で、小学校6年からサッカーを続けています。



長野県蓼科高原で宿泊合宿を実施。ペンションでおいしい食事を食べている様子

次回のインタビューはボコボコホッピング富士見町の上田早苗さんです。お楽しみに!